



「外為短期投資家動向調査」結果

<第25回調査>

2011年6月27日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2011年6月14日(火)13:00~2011年6月21日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、869件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

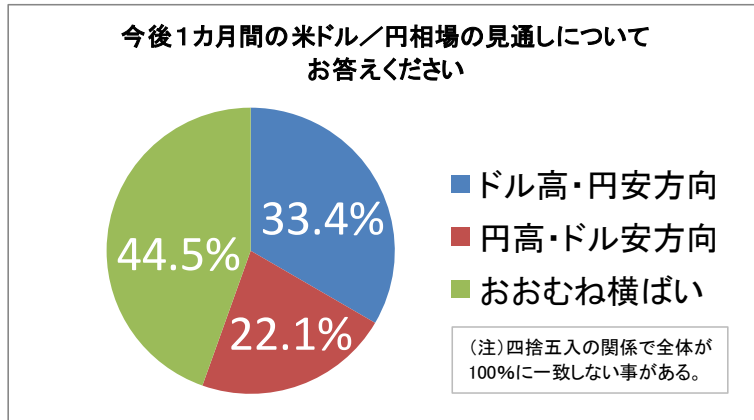
Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第25回調査結果略報：ドル円予想DIプラス維持もプラス幅は縮小】

問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

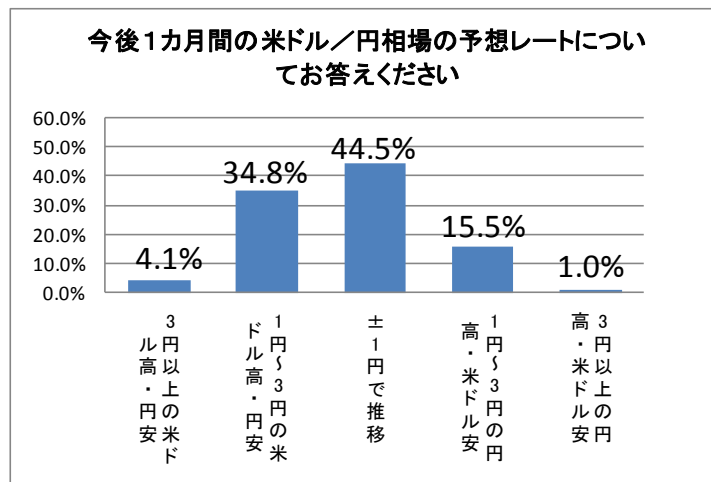
「今後1ヶ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が33.4%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が22.1%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+11.3%ポイントとなり、前回調査(+28.0%ポイント)からプラス幅は縮小したものの、3カ月連続でドル高・円安予想が優勢となった。もっとも、最多の回答割合を得たのは「おおむね横ばい(44.5%)」であり、調査期間中のドル円相場が80円から81円前後のほぼ1円幅という狭いレンジで方向性に欠ける展開となった事が影響したものと思われる。ちなみにこの44.5%という横ばい見通しの回答割合は2010年6月の第13回調査における44.9%に次いで、過去2番目に高い割合である。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場の予想レート」については、「±1円で推移」が44.5%と最も多く、次いで「1円～3円のドル高・円安」が34.8%、「1円～3円の円高・米ドル安」が15.5%、「3円以上のドル高・円安」が4.1%、「3円以上の円高・米ドル安」が1.0%の順になった。ヒストグラムの形状はややドル高・円安方向に偏っているものの、「±1円で推移」を頂点とした「へ」の字型となっている。今後1カ月のドル円はやや円安気味に推移するものの比較的小幅な値動きにとどまると見ているFX投資家が多い事をあらわしており、問1の回答結果と整合的と言える。



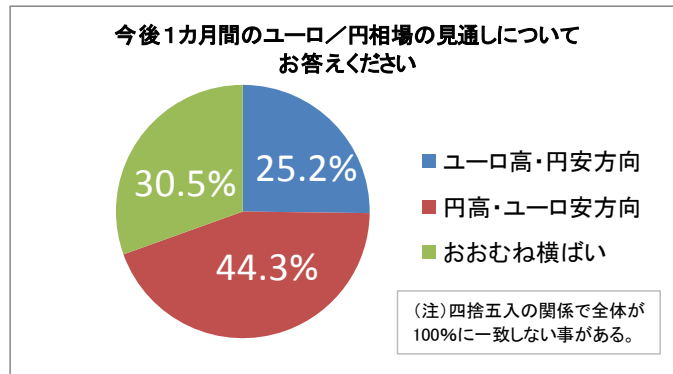
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が25.2%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が44.3%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は-19.1%ポイントとなり、前回調査の-12.9%ポイントに続き円高・ユーロ安予想が優勢となった。調査期間中のユーロ円相場は、116円台から113円台まで下落後、ユーロ圏財務相会合や独仏首脳会談を経てギリシャの債務不履行懸念が一旦緩和した事で115円台に反発するなど荒い値動きとなった。しかしながら多くのFX投資家は、今後もギリシャをはじめとする欧州高債務国のソブリン問題がユーロの重しになると見ているようだ。

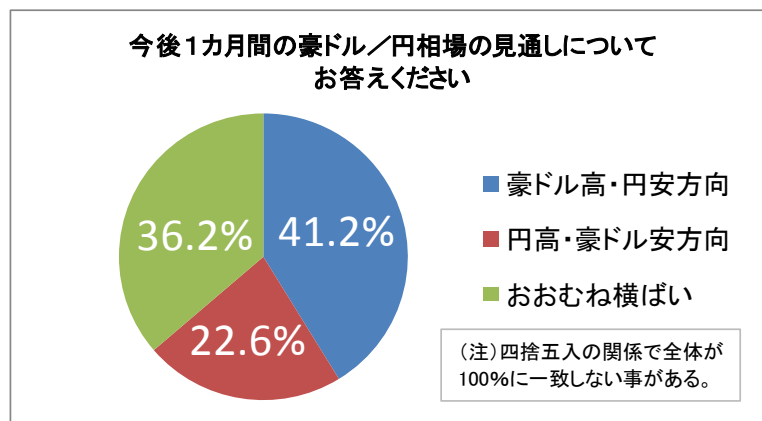
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が41.2%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が22.6%となった。この結果「豪ドル円予想DI」は+18.6%ポイントとなり、3カ月連続での豪ドル強気予想となったものの、前回調査の+28.7%ポイントに比べるとプラス幅は約10%ポイント縮小している。調査期間中の豪ドル円は86円台から84円台まで下落するなどやや軟調に推移し、上値が重い様子も感じられた。米国や中国の景気減速懸念、欧州債務懸念などを背景にFX投資家の豪ドル強気姿勢が徐々に後退しつつあるのかもしれない。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

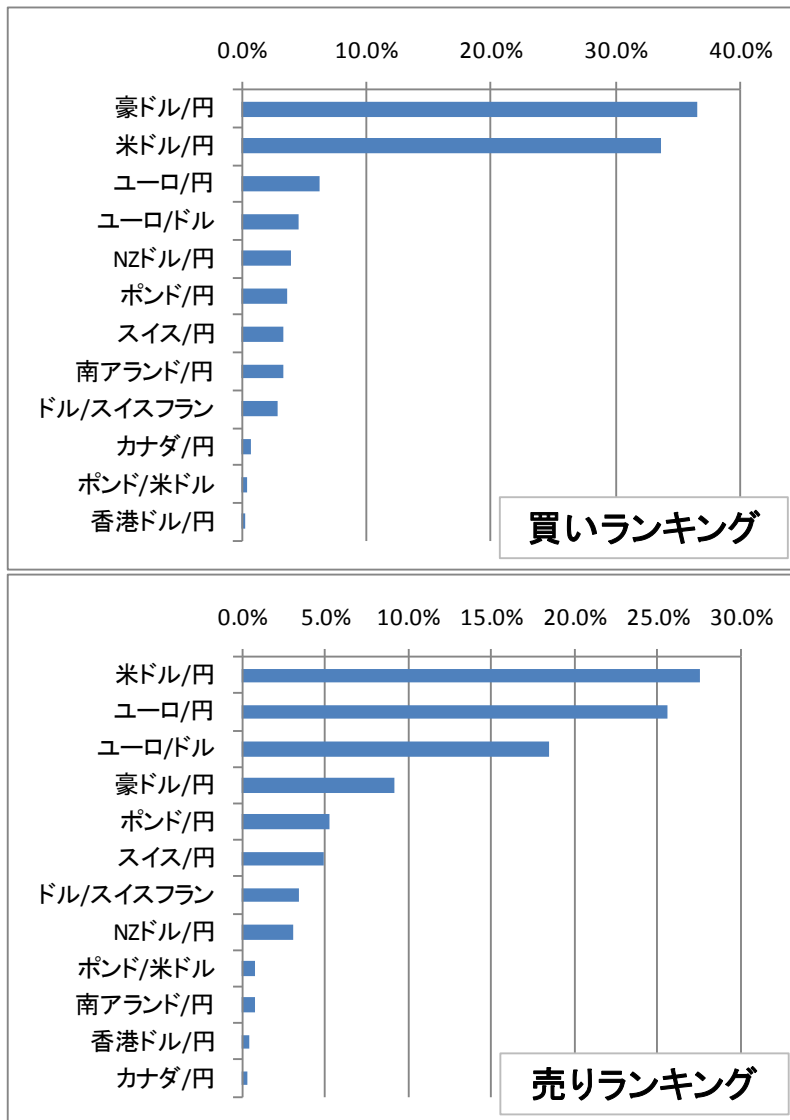


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(36.6%)、2位ドル円(33.6%)、以下大きく離れて3位ユーロ円(6.3%)、4位ユーロドル(4.6%)、5位はNZドル円(4.0%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ドル円(27.5%)、2位ユーロ円(25.5%)、3位ユーロドル(18.5%)、4位豪ドル円(9.2%)、5位ポンド円(5.3%)となった。「買い」で注目の通貨ペアは今回も豪ドル円とドル円が人気を二分する形で、合算の回答割合は7割を超えており、FX投資家の両通貨ペアに対する人気は不動のものとなっている。一方、「売り」で注目の通貨ペアでも、欧州債務問題に対する不安がくすぶるユーロ円やユーロドルを抑えてドル円が1位となっており、FX投資家のドル円に対する関心の高さを改めて印象付ける結果となった。

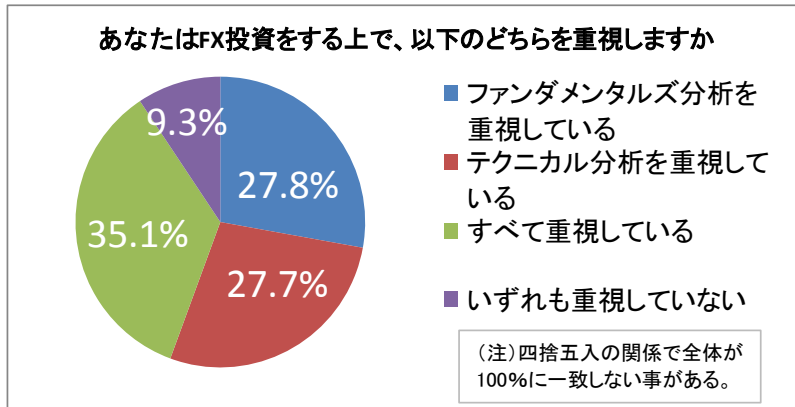


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

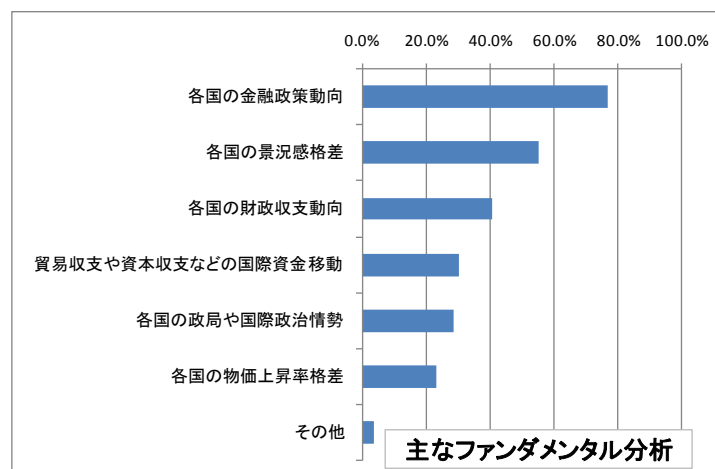
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が27.8%であったのに対し「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が27.7%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が35.1%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は9.3%となった。調査開始以来回答割合に顕著な変化は生じていない。FX投資家の分析手法の好みは、相場環境には左右されにくいようだ。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(76.9%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(55.1%)」、「各国の財政収支動向(40.1%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(30.3%)」、「各国の政局や国際政治情勢(28.7%)」の順に続いた。今回も引き続き「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して8割近い回答割合を集めている。為替相場を動かす基本的な要因である「金融政策格差」つまりは各国の「金利差」に注目するFX投資家が多数を占める傾向に、調査開始以来大きな変化は見られない。

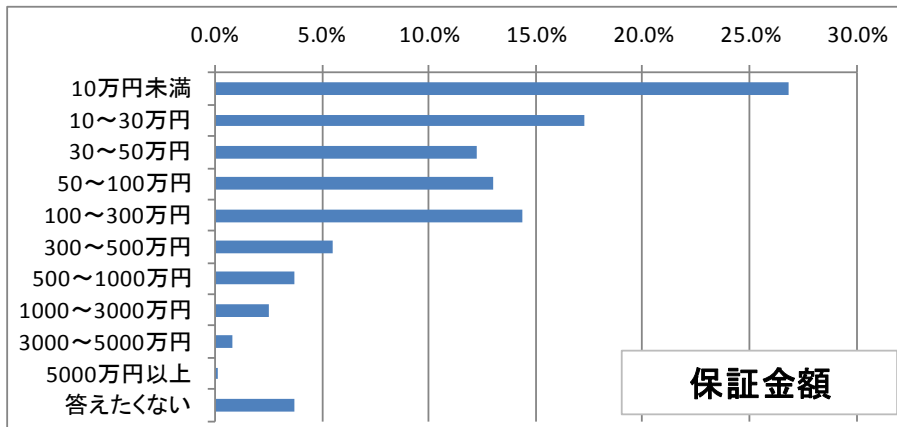


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

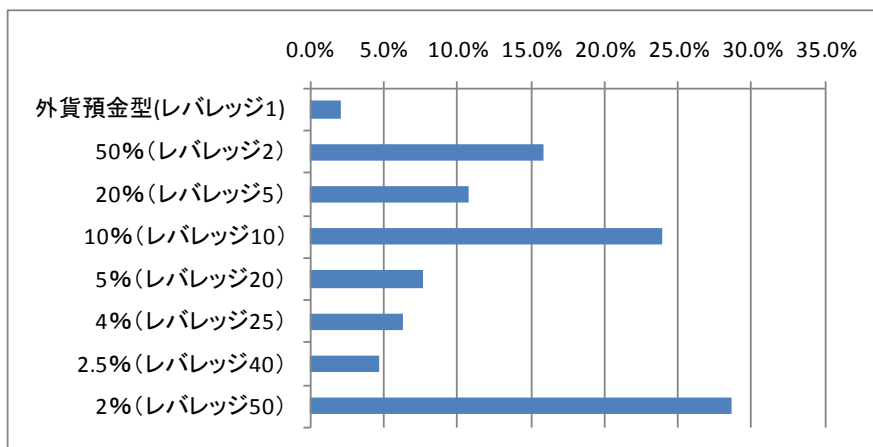
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が26.8%と最も多く、以下「10～30万円(17.3%)」、「100～300万円(14.4%)」、「50～100万円(13.0%)」と続いた。100万円以下の保証金で取引を行うFX投資家がほぼ7割を占める(合算割合)一方で、1000万円以上と答えた合算割合は3.4%にとどまった。比較的小額の保証金で取引が可能というFXの特性を生かしている投資家が多数存在している事がうかがわれるが、8月に実施されるレバレッジ規制(上限を50倍から25倍に引き下げ)後に、FX投資家の保証金の額に変化が現れるかどうか注目される。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「2%(レバレッジ50)」がと答えた割合が28.7%と最も多く、以下「10%(レバレッジ10)」が23.9%、「50%(レバレッジ2)」が15.9%、「20%(レバレッジ5)」が10.7%と続いた。前回調査に続いて「2%(レバレッジ50)」と答えた割合が3割近くを占めてトップの座を守っており、問8の結果と重ねると「小額の保証金×高レバレッジ」での取引を行うFX投資家が多く存在する事がうかがえる。ただ、今年8月には「2%(レバレッジ50)」は廃止となり、「4%(レバレッジ25)」が上限となる事が決まっている。今後のFX投資家のレバレッジ選択が、上限引き下げの前後でどう変化するのか注目される。

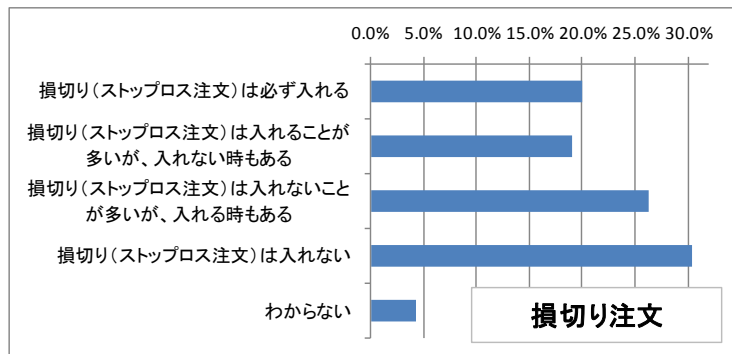


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

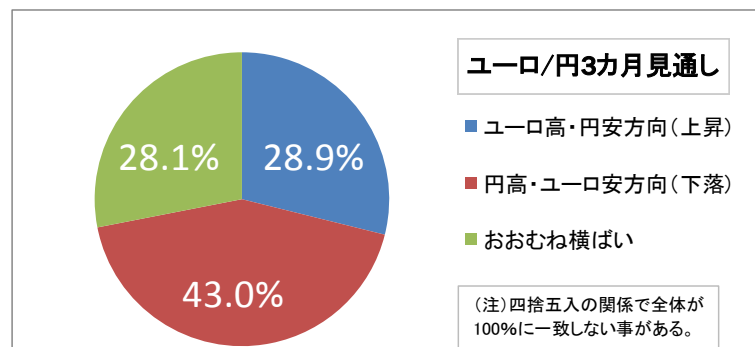
問10: 損切り(ストップロス注文)について、最も当てはまるものはどれでしょうか。(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として「損切り(ストップロス注文)について、最も当てはまるものはどれでしょうか。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「損切り(ストップロス注文)は入れない」と答えた割合が30.4%と最も多く、以下、「入れないことが多いが入れる時もある(26.2%)」、「必ず入れる(20.0%)」、「入れることが多いが入れない時もある(19.1%)」と続いた。その理由について自由記述形式で尋ねたところ、「ストップロス注文を入れない」理由としては「低レバレッジのスワップ重視の取引だから」、「長期保有が前提だから」などが目立った。一方、「必ず入れる」理由としては「以前、ストップロスを入れなくて大きく損失が出た経験から」、「リスク管理のため」、「次の取引に資金を残すため」などが挙げられた。「必ず入れる」と答えた回答割合(20.0%)はやや低いように感じられるが、FX投資家の中には「中長期投資派」が少なからずいる事を考えると、いわゆる「短期トレード派」の間ではストップロス注文がある程度浸透している可能性が高いと言えそうだ。



問11: 今後3カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください。(ひとつだけ)

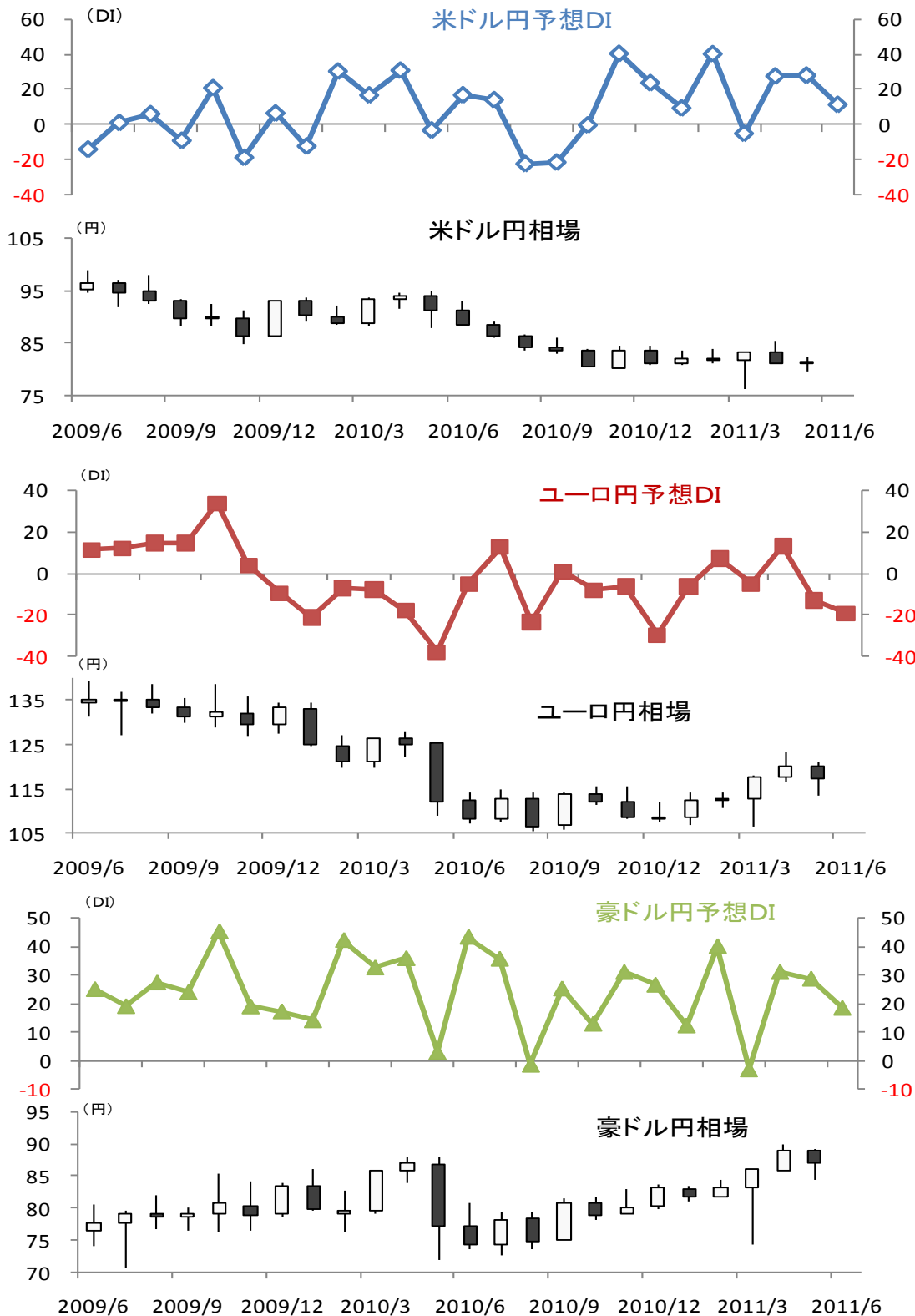
今月のもう一つの特別質問項目として「今後3カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「円高・ユーロ安方向」が43.0%であったのに対し、「ユーロ高・円安方向」は28.9%、「おおむね横ばい」が28.1%となった。問2の今後1カ月間のユーロ円相場の見通しと比べ、ユーロ高・円安を予想する向きが若干増えているものの、円高・ユーロ安予想が優勢である回答割合に大きな変化はない。欧州債務問題が長期化すると見ているFX投資家が多いものと推測される。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第25回目となりました。前月との対比での時系列比較は可能になり始めていますが、開始後2年が経過し、前年同期との比較も可能になってきました。しかしながら、まだ充分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com